

選択性緘黙幼児に対する教育相談場面における刺激フェイディング法の適用

○趙 成河

(筑波大学大学院人間総合科学研究科)

園山繁樹

(筑波大学人間系)

KEY WORDS: 選択性緘黙 刺激フェイディング法 発話・表情・身体動作チェックリスト

【目的】 選択性緘黙児の多くは、学校等で話せないだけでなく不安を感じており、表情や身体に表れることが多い(加藤他, 1981)。選択性緘黙児の発話を促進する方法として、主に刺激フェイディング法が適用されている。刺激フェイディング法は、対象児が話すことができる場面から支援を始め、発話関連刺激と緘黙関連刺激を調整しつつ、徐々に話せない場面に近づけていく方法である(園山, 2017)。本研究では選択性緘黙幼児1名を対象とし、教育相談場面において刺激フェイディング法を適用し、その効果を検討した。

【方法】 1. 支援対象児: 支援開始時に幼稚園年長の男児。軽度の吃音症状があるが、家庭で本児は気にせず話している。支援開始前、幼稚園の担任教師との面談では、呼名に「はい」と答えることは可能であるが、それ以外の場面では発話は少なく、声も非常に小さく、予期せぬことがあった場合、泣くことが多いと報告された。

2. 支援期間と場面: X年9月~X+1年4月まで、原則として月1回、約1時間、A大学の教育相談プレイルーム。

3. 支援手続き: プレイルームで一緒に活動する人と活動時間を刺激フェイディング法に基づいて調整した。MTとの活動では型はめクイズ、音読、先週のできことについて話すなどの「学校ごっこ場面」を設定した。それ以外は遊具やゲームなど遊び活動とした。母親は担任教師と連絡帳を通して、園での緘黙症状について情報交換した。教育相談場面のプレイルーム内の参加者と時間(分)の経過をTable 1に示した。

4. 従属変数: すべての教育相談場面をビデオ録画した。場面(参加者)ごとの発話・表情・身体動作について、5段階のチェックリスト(Table 2)を用いてレベルを測定した。

【結果】 教育相談場面における発話・表情・身体動作レベルの推移をFig.1に示す。発話はセッション4からST1との遊び場面で増加し始め、セッション5と6ではMTとの学校ごっこ場面でも自発的な発話が見られた。表情も発話の変化に伴い、ほほ笑みや笑顔が増加した。身体動作は全セッションで緊張は見られなかった。セッション7の終了後の担任教師との面談では、本児が遊戯会で大きい声で自分のセリフが言え、その後自信がついた様子が見られるようになった。泣くことも少なくなり、自由時間に仲の良い男児と遊ぶことが見られた。セッション9では、入学した小学校の授業参観日にクラスの前で自己紹介ができたこと、母親の報告があった。

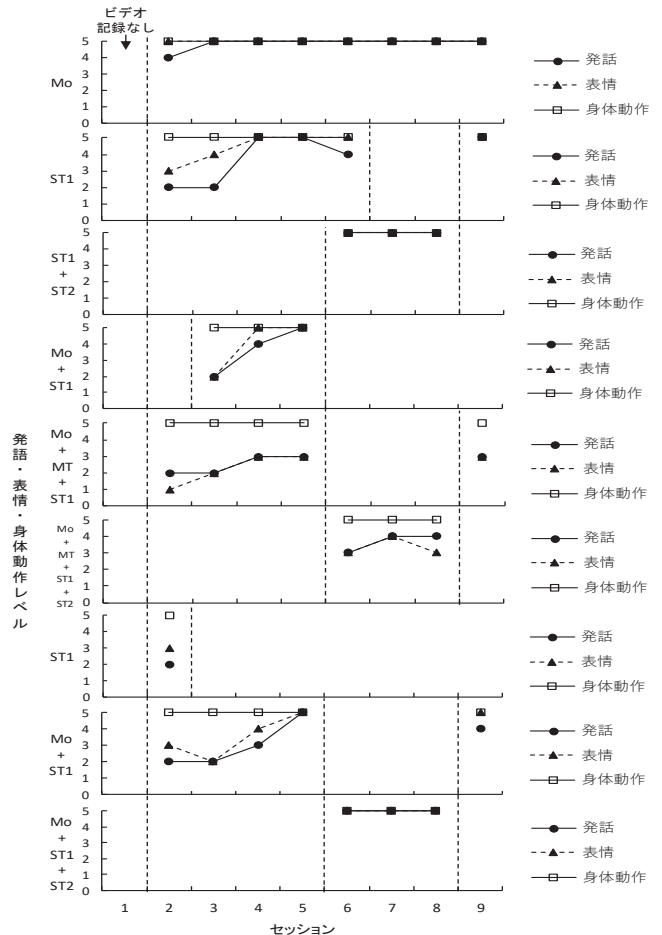


Fig1. 発話・表情・身体動作レベルの推移

伴い、ほほ笑みや笑顔が増加した。身体動作は全セッションで緊張は見られなかった。セッション7の終了後の担任教師との面談では、本児が遊戯会で大きい声で自分のセリフが言え、その後自信がついた様子が見られるようになった。泣くことも少なくなり、自由時間に仲の良い男児と遊ぶことが見られた。セッション9では、入学した小学校の授業参観日にクラスの前で自己紹介ができたこと、母親の報告があった。

【考察】 本研究は主に教育相談場面で支援を実施したが、幼稚園と小学校場面でも緘黙症状が改善し、般化やプライミング効果の可能性が考えられた。一方、発話と表情レベルは活動内容によって変動が大きく、より効果的な参加者・活動の調整については今後さらに検討する必要がある。

【引用文献】 加藤哲文・小林重雄・財部盛久(1981) 重度精神遅滞児の選択性緘黙反応に対する行動療法的アプローチ. 行動療法研究, 7(1), 2-8. 園山繁樹(2017) 選択性緘黙を示す小学生の担任、母親および特別支援教育コーディネーターへのコンサルテーション. 障害科学研究, 41, 195-208.

【付記】 本研究は筑波大学人間系研究倫理委員会の承認を得て実施し、JSPS 科研費 16H03808 の助成を受けた。相談内容の公表については、支援対象児の保護者より書面による承諾を得た。

(CHO Sungha and SONOYAMA Shigeki)

Table 1 刺激フェイディング法の概要

		参加者*								
開始	Mo	#1	#2	#3	#4	#5	#6	#7	#8	#9
		ST1	50'	15'	10'	10'	10'	5'	5'	5'
	ST1+ST2	10'	10'	10'	10'	10'	5'	15'	20'	
	Mo+ST1			10'	10'	10'				
	Mo+MT+ST1		20'	25'	25'	25'				20'
	Mo+MT+ST1+ST2						20'	25'	20'	
	ST1		10'							
	Mo+ST1		5'	5'	5'	5'				10'
終了	Mo+ST1+ST2						5'	5'	10'	

*Mo: 母, MT: コンサルタント(第2著者), ST1(第1著者)・2: 大学院生

Table 2 発話・表情・身体動作レベルチェックリスト

	1	2	3	4	5
発話	無発話	瞬きやうなずき返事	声が小さく、「はい」「いいえ」以外にほとんど話さない	質問に対し、具体的に答える。	自発的な話しかけ、感情表現をする。
表情	ほおの緊張があり、表情の変化がない泣く	視線が不安定で、瞬きをした後、眉を動かす変化がない	ほおの緊張はなく、少しほほ笑み、変化はあるが、少ない。	笑顔で時々笑い声が出る変化が多い	笑顔で笑い声が多い変化が多い
身体動作	直立不動、ごこちない	下を向いており、動きが少ない。	肩は上がっており、動きが遅い	肩は上がっており、動きが遅い	自然に動く